

岡山駅前広場への路面電車延伸事業に係る環境影響評価準備書に対する知事意見

平成 31 年 4 月 26 日

1 総論評価

(1) 事業計画について

今後の詳細設計や具体的な施工計画の策定に当たっては、事業実施区域内の交差点周辺の交通量や交通流にも留意し、環境負荷の少ない工法を積極的に採用するなど、環境への影響の回避・低減が図られるよう配慮すること。

また、施工計画の具体化や見直しを踏まえた予測・評価の再検証を行い、必要に応じた事後調査の実施を検討し、環境管理計画に反映すること。

(2) 環境管理計画について

実施することとした環境保全措置の実施状況を確認するため、環境保全措置の実施状況の記録を環境管理計画に位置づけること。

(3) 地域住民への適切な配慮について

地域住民に対し、今後具体化する事業計画の内容や環境管理の結果について適切な時期及び方法により情報提供するとともに、評価書の作成に際しては、より分かりやすい図書とすることに努め、理解と協力を求めながら事業を進めること。

特に交通シミュレーション結果及び交通解析結果については、ピーク時交通流入量の変化を踏まえた駅前交差点の交通への影響の程度を考察の上、雨天時等の天候の影響についての検討状況も記載するなど住民に分かりやすい記載に努めること。

2 各論評価

(1) 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持

ア 大気環境

(ア) 大気質

① 資材等運搬車両の通行時間帯を分散化させるなど、工事の実施に伴う大気質への環境負荷を可能な限り低減させること。

② 工事の実施に伴う粉じん等（降下ばいじん）については、工事の影響が最大となる時期に現地調査を実施することにより、予測結果の妥当性を検証すること。

③ 交通シミュレーション結果では、周辺の交通量や交通流に大きな変化はなく、供用後の車両の通行による大気質への影響は軽微であるとされているが、その結果の検証のため、環境管理において供用後の周辺交通量の調査を実施し、環境への影響を調査するとともに、必要に応じ環境保全措置を講ずること。

(イ) 騒音・振動

① 施工計画において夜間工事を行う場合、その内容・期間等によっては、相対的に周辺環境への影響も大きくなることが想定されることから、工事中の

騒音・振動の環境影響評価項目としての選定の必要性について再度検証を行い、その内容を評価書に記載すること。

- ② 列車の走行に伴う騒音・振動について、本事業による列車の走行の影響を把握し、必要に応じて追加の環境保全措置を実施するため、新設する停留場周辺においても、供用前及び供用後に調査を実施すること。

- (2) 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全、地域の景観の保全及び人と自然との豊かな触れ合いの確保

- 植物・景観

修景ゾーンのデザイン案については、「緑あふれる岡山駅前広場というイメージを与えるようなデザイン案とする」という貴市の方針に基づき、可能な限り緑化に努めたデザイン案とし、供用後も緑化が維持されるよう、適切に維持管理を行うこと。

また、景観の予測・評価については、可能な限り最終的なデザイン案を用いた予測・評価を再実施するとともに、その内容を評価書に記載すること。